

## <対策のポイント>

民間活力を導入しながら農業農村整備事業の効率的な実施に資する技術の開発を行うとともに、開発技術の普及促進を図ります。

## <政策目標>

- 担い手への集積・集約化等を通じた農業競争力の強化及び高収益作物への転換等を通じた産地収益力の強化
- 頻発化・激甚化する災害に対応した施設整備による農業・農村の強靱化
- 農業集落排水施設における強靱化・グリーン化の推進

## <事業の内容>

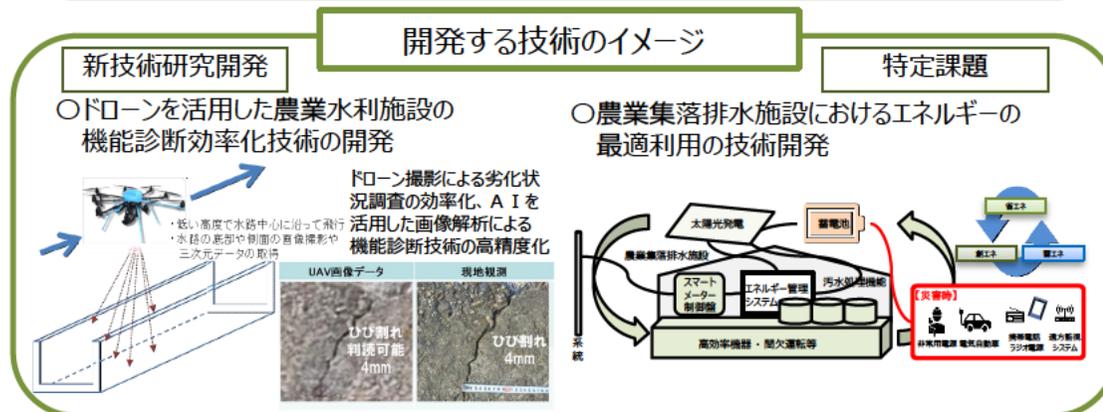
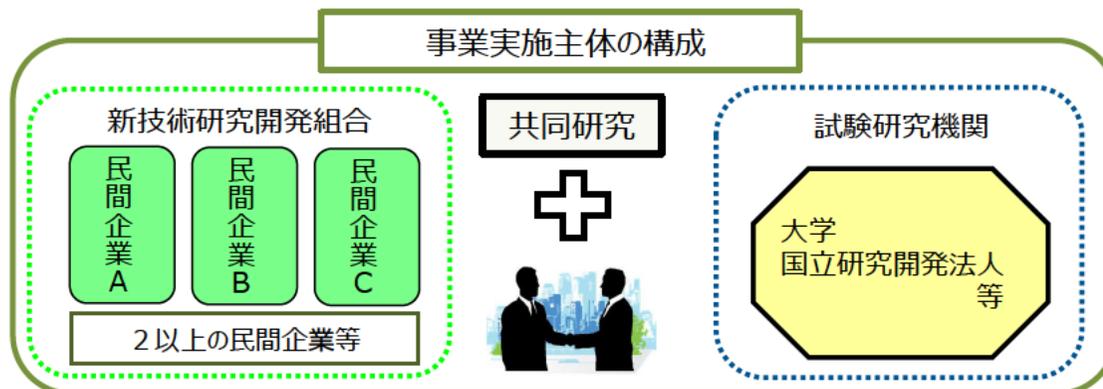
## <事業イメージ>

### 1. 新技術研究開発

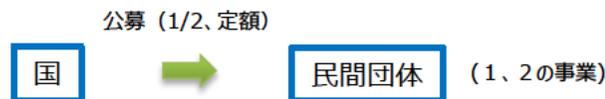
- 「農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術」及び「農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術」など、農業農村整備事業の効率的な実施に資する技術の開発を官民の連携の下で行います。

### 2. 特定課題（農業集落排水施設の効率性向上のための技術開発）

- 農業集落排水施設における平常時・非常時を通じたエネルギーの最適利用の実現に資する技術の開発を官民の連携の下で行います。



## <事業の流れ>



【お問い合わせ先】 (1の事業) 農村振興局設計課 (03-3591-5798)  
 (2の事業) 農村振興局地域整備課 (03-6744-2209)

# 官民連携新技術研究開発事業（特定課題（拡充））

## ポイント

農業集落排水施設におけるエネルギーの最適利用を通じた強靱化・グリーン化の推進

## 課題

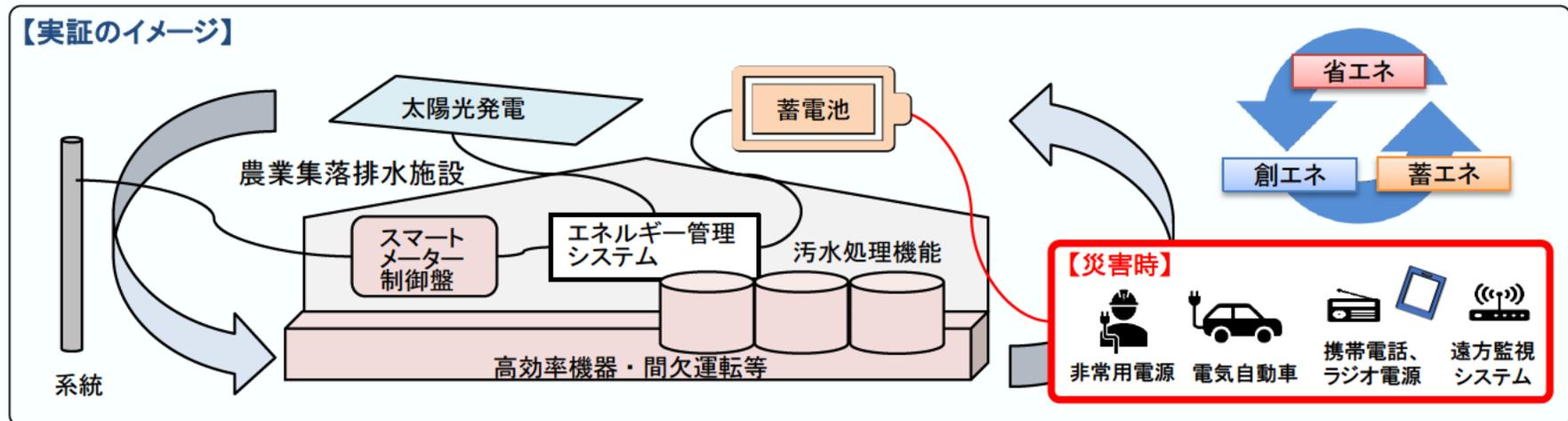
- 農業集落排水施設については、多くの施設が更新時期を迎えている中、維持管理費負担の軽減、災害に伴う停電時の機能確保など施設の強靱化、温室効果ガス排出削減等が課題となっている。

## 事業内容

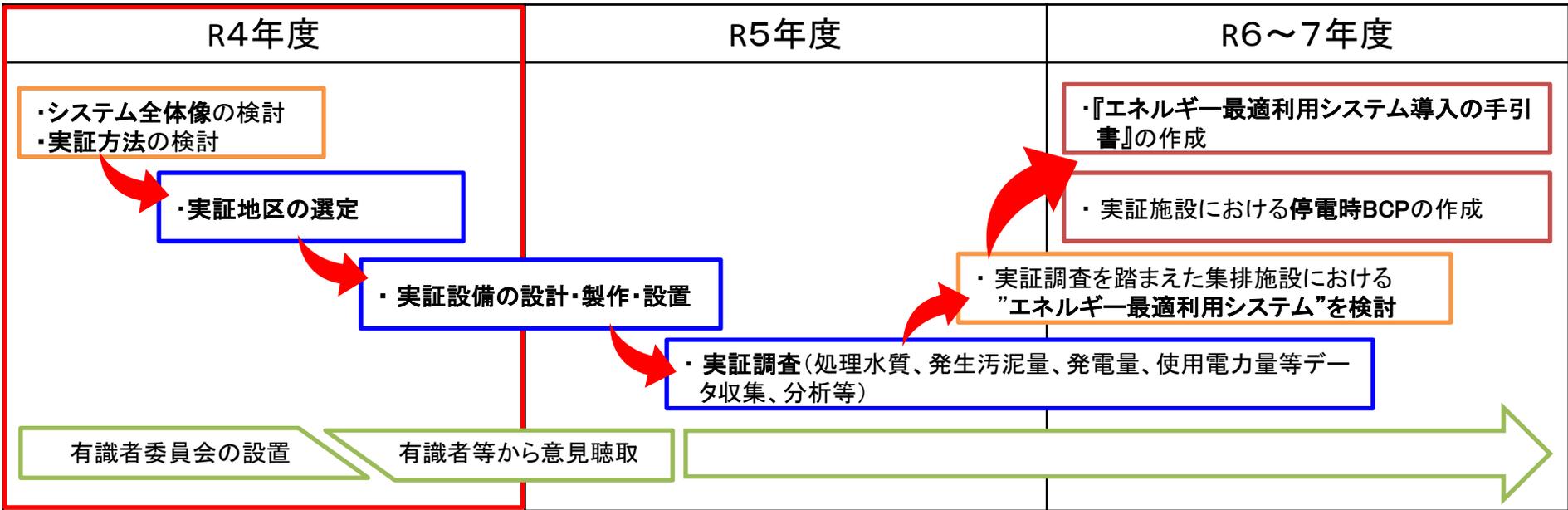
### 農業集落排水施設におけるエネルギー最適利用の技術開発

農業集落排水施設において、高効率機器・太陽光発電・蓄電池等を組み合わせて、平常時・非常時を通じたエネルギーの最適利用を実現するための技術を開発・実証。

#### 【実証のイメージ】



- 集排施設では、老朽化に伴う維持管理負担の増大、災害時（停電時）の事業継続対策、温室効果ガス排出量削減対策に課題。
- 技術革新が著しく、汎用性も高まる①省エネ（省エネ技術）、②創エネ（太陽光発電）、③蓄エネ（蓄電池）の技術を実証地区に同時に導入して、非常時（停電時）の事業継続（強靱化）とともに、平常時の維持管理負担の軽減や温室効果ガス排出量削減を可能にする最適なエネルギー利用システムを研究開発して構築し、集排施設における強靱化・グリーン化を推進。
- 令和4年度は、有識者委員会を設置するとともに、実証地区を選定し、実証設備の導入に向けた設計・製作等を実施。



## ○事業関連技術（イメージ）

【創エネ】太陽光発電設備（集排施設設置例）



太陽光発電施設・架台設置型  
（群馬県富岡市）



太陽光発電施設・屋根置き型  
（佐賀県白石町）

## 【蓄エネ】蓄電池



蓄電システム（三相3線式）

## 【省エネ】省エネ運転（集排施設導入例）

・ブロウ等の風量、運転時間の調整



ばっ気ブロウ



ばっ気攪拌装置



コントロールパネル

# 小規模太陽光発電 + 小規模蓄電池システムのイメージ

(三相200V)

※実証地区に合わせた稼働機器を選定します

